

# こども心身だより



第 149 号 - 平成 30 年 3 月発行

## 巻頭言

先月は冬季オリンピックの話題で賑わいました。冬季オリンピックでは平成 10 年（1998）に長野で開催された時を抜いて、史上最多のメダルを獲得しました。そして、羽生選手のケガからの回復と金メダル獲得をはじめ、個々の力よりもチームワークが勝利をもたらした女子スピードスケートなど、多くの感動もありました。オリンピックになると、国民の多くは愛国心を意識して応援します。

かなり前になりますが、ある金メダルを取った選手が、表彰台で国旗が掲揚され、国歌が演奏されている時、あまりにも恥ずかしい態度であったので、一部で非難された時代からすれば、隔世の感があります。なにしろ、わが国では「愛国心」や「国威」というような言葉は、かなりの者が意識しない／好ましくないと思う風潮が戦後永く続きました。

今から 10 年余り前の平成 18 年（2006）のトリノ（イタリア）の冬季大会。日本選手が振るわなかったのですが、唯一の金メダリストであった荒川静香選手が国旗を体に巻いて場内を一周したことが契機になったのか、最近ではメダルを取ると国旗を振ったり、体に付けたりする選手が増えました。しかし、この荒川選手の「感動的な行為」を公共放送のNHKは、わざと放映しなかったのです。これこそ、当時のわが国の状況を示している出来事でした。この放送局は受信料を強制的に取る「公共」放送でありながら、長く日本ダービーの実況放送では、国旗が掲揚され国歌が流れる場面では、意図的に競争馬の「お尻」を写していた実績があるように、NHKをはじめ日本の報道機関は自分の国を否定してきました。このような社会でしたから、選手も「国を背負う」意識など無くて当然だったのです。

日本では長らく自分の国に対する「愛国心」は否定し、「国威」などと言う言葉は、短絡的に「他国を攻める」と曲解し、戦争に繋がると妄想するだけでなく、隣国の反日国の愛国心（むしろ国家主義）には理解を示すのが、先の公共放送や一流新聞の姿勢でした。

この結果、他の国では絶対に起こりえない事件も多数ありました。今から 20 年余り前の平成 11 年（1999）、広島の世界高専で校長が卒業式の国旗掲揚を阻止する教員組合とのトラブルを苦にして自殺した事件はその最大のものでした。「校長の自殺」という事の重大さから、その年に国旗国歌法成立に発展しました。このような法律を作らないと、まともに国旗や国歌への対応もできない教育現場の姿を浮かび上がらせたのです。しかし、先のNHKも一流新聞も最後まで法案成立に反対の姿勢を持ち続けました。ある新聞などは「ビートルズの『イマジン』を国歌にしよう！」というような、呑み屋のヨタ話的话题を貴重な紙面を使って報じる異様さでした。この新聞は後に、虚言癖があり「有名になりたい病」のいかがわしい男の書いた「慰安婦のでたらめ

本」を何度も採り上げて、わが国を「品性下劣で野蛮な民族」と世界に広めることに邁進します。一昨年になって屁理屈を並べ立てて、しぶしぶ誤りだったと謝罪しましたが、海外に向けては一切していませんので、今も「虚」が広がり続けています。

話を戻しますが、この世羅高校が5年に渡り、韓国に出かけて「日本は悪いことをしました」と謝罪修学旅行をしていた事実を、これらのメディアは一切報道しませんでした。この高校の異様さは当時、広島に吹き荒れた教員組合の横暴が原因であり、それは「私憤を公的にはらした」と私は解釈している某有名文部技官が大きく関与していたのですが、彼自身が当時は花形で、上記のメディアは当然のことながら好意的に扱っていました。

更に、法律ができた翌年でも、東京・国立市の小学校で、校長が卒業式に国旗を揚げたことに腹を立てた小学生が「校長に土下座をさせた事件」も出現しました。これは全国的には報道されませんでしたから、本欄をお読みの方は知らない事件です。この異様さが当時のわが国の姿であり、教育界の病根の深さを示していました。

以前に本欄でも書きましたが、私が10年程前から5年間兼務した私立大学では、国立の教育大学を定年で辞めた教授が多く勤めていましたが、彼らは入学式でも卒業式でも国歌を歌わないのです（法律ができて10余年経っていたのに！）。彼らは国から給与をもらい、この国の未来を担っていく子どもを教える教育者を育てる仕事を生業にしていたのに、国を否定し続けていたのです。流石に再就職した私学の壇上に挙げられた国旗を引きずり降ろす行動はとりませんでした。それは再就職した場を失いたくない思いが優先しただけなのでしょう。私は彼らの頭の中は70歳に届く年齢になっても「このような愚かな思考を持ち続けているのか？」とあきれ返りました。個人的には皆、よい方々でしたから、よけいに残念であると共に、彼らが教え続けて教師になった者が、今も日本の学校に溢れている現実に、背筋が凍る思いになりました。（富田）

## 用語解説「公認心理師」

カウンセリングなどの相談業務を行う人は、今まで国家資格を持っていませんでした。

国家資格を作るため日本心理臨床学会は、まず、民間資格団体として財団法人日本臨床心理士資格認定協会を設立し、臨床心理士を作りました。

そこから様々な経緯をたどり、多くの関係者の協力の中、2015年9月に国家資格としての公認心理師法が成立し、2017年9月に施行されました。

2018年の9月に国家試験があり、多くの公認心理師が生れることとなります。国民の心の健康に貢献する資格として期待されています。

## 定例学術研究会

今年の定例学術研究会は「体から診る心」を年間テーマにして開催します。詳しい日程、講師、講演タイトル等、ホームページに年間案内を掲載いたしております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

〔参加資格〕子どもに関わる専門職の方、大学生・大学院生（守秘義務を有する方）

〔参加費用〕通年参加（12,000 円／年）を基本としますが、会場定員に余裕がある場合は単回参加（3,000 円／回）も受け付けます。必ず事前にお申し込みの上ご参加下さい。

〔参加申込〕参加をご希望の方は、必ずお申し込みをお願いいたします。

※ご不明な点はこども心身医療研究所までお問い合わせください

### 【第 351 回印象記】

平成 30 年の年間テーマ「心身相関を『体から心』の視点で見直す」の 1 回目として、こうむら女性クリニックの甲村弘子先生に「女性のからだとホルモンバランス」の講義を承りました。

女性ホルモンの働き、分泌システムなどの基礎講義の後、実際の臨床場面で遭遇する PMS（月経前 3～10 日の間続く精神的あるいは身体的症状で、月経が始まるとともに減ったり、消えたりするもの）、摂食障害とホルモンの関係の話をしていただきました。エストロゲンは生殖機能のみでなく、骨代謝、皮膚代謝、血管内皮、脳機能にも関与し、プロゲステロンも水分・糖代謝、神経伝達物質分泌に作用しているので、これらのホルモンの変動が女性のからのあらゆる部分に影響を与えることとなります。PMS は主にプロゲステロンの急速な低下が原因であり、重症タイプの月経前不快気分障害に対しては心理療法・SSRI・ホルモン療法（いわゆるピル）・漢方による治療が必要になります。特にピルに関しては、安全で有効な治療であり、これによって女性の人生のかなりの部分を占める、月経前の苦痛が解消することで、日常生活が大きく改善されると話されました。

摂食障害が無月経を来すのは、体重減少によるものだけではなく、心理的な要因も大きいと考えれば、摂食障害の完治条件として自然な月経発来も一つの目安になるのではないかと思います。また、心身の健康状態がホルモンバランスに大きく影響するという点からは、規則正しい月経のあることが、ある意味女性の健康状態のバロメーターになるのではとも思いました。（Y.Y）

## 第 10 回こども心身セミナー

### テーマ「発達障害最前線—親と子どもへの対応と治療—」

客員講師に 12 年ぶりに杉山登志郎先生をお迎えし、発達障碍児の最近の話題を中心に、薬物療法、生活、心理支援の必要性について講義していただく予定です。また毎年好評の客員講師を囲む会、セミナーのテーマに沿った映画上映、自律訓練法の体験、笑いヨガなども行います。

会場は例年と同じく、交通の便が良く、大阪湾の夜景が美しい研修専門の都会派ホテルです。前回はホテルが満室になりましたので、是非、お早目にお申込み願います。

### 【参加要項】

対象；医療関係者・教育関係者・心理関係者と専門の大学院生等

日時；平成30年5月26日（土）～27日（日）1泊2日

会場；ホテルコスモスクエア国際交流センター（大阪南港）

新大阪から約30分（大阪市営地下鉄とサークルバス利用）

関西国際空港から約50分（リムジンバス利用）

費用；35,000円／1泊2食付

（当研究会会員及び過去のセミナー参加者は32,000円）

原則としてツインルームでの受付となります。シングルルームは数に限りがありますので、お早目にお申し込みください。（シングルルームの場合、5,000円追加となります）。

※日本小児科学会、日本心身医学会の認定医点数と日本小児科医会「子どもの心相談医」の研修更新点数が認定されます（予定）。

案内チラシ（申込書付）をご希望の方は、こども心身医療研究所までお問合せください。

詳細はホームページでもご案内いたします。

ご寄付をいただいた方々（平成29年12月～平成30年1月）

大阪女学院様 細川禎子様 豊中市立第八中学校様  
岡田正幸様 中村淳子様 他 若干名様

私たち社団法人では多くの方々のご理解やご協力に支えられて活動を続けております。これからもよろしくお願い申し上げます。

ご寄付振込先◆郵便振替 000930-6-98381

◆銀行振込 三井住友銀行 大阪本店営業部 普通 3180573

りそな銀行 堂島支店 普通 2310713

### 掲載内容についてのお問合せは

一般社団法人 大阪総合医学・教育研究会 こども心身医療研究所  
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-6 Tel.06-6445-8701 Fax.06-6445-7341